

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 春日丘高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒487 - 8501 愛知県春日井市松本町1105番地

E-mail yamamura@haruhigaoka.ed.jp

Website http://www.haruhigaoka.ed.jp/senior/

児童生徒数 男子 887名 女子 583名 合計 1470名
 児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

平成27年度のESD学習活動は、昨年度と同様に主に以下の三つの柱で成り立っています。

一つ目は「修学旅行を通じたESD学習」です。一昨年度、ユネスコスクールへの加盟申請を機に、修学旅行の学習を、学校全体で取り組む「ESD学習」と位置付けました。そして昨年度より、全校的なESD学習活動として、第2学年500人を対象とした「課題探求型学習」をスタートしました。教育課程の異なる4つのコースの修学地（沖縄、シンガポール、オーストラリア）に対して「持続可能な社会の発展に向けての街づくり、国づくり」を共通のテーマに定め、1班4～5人に分かれて、5つの研究領域（①少子高齢化 ②経済 ③環境 ④平和 ⑤異文化理解）から一つを選択し、事前学習 → 文化祭での中間発表 → 現地学習 → まとめ学習（研修記） → 全体発表（プレゼンテーション）の流れでESD学習を実践しています。今年度は、国際コースにおいて、インドネシアのインフラ問題（ガス）に注目し、問題点とその対策について英語でプレゼンテーションを行いました。最後に、中部大学の中島泉先生から総評をいただき、このESD学習が今後どうあるべきかをご助言していただきました。

修学旅行を活用した「課題探求型学習」は、現地学習（フィールドワーク）を含むため、生徒が事前学習で得た知識を、現地での体感とともに確認でき、学びに対する充実感や達成感が得られることが期待できます。今後は、問題基盤型学習（Problem Based Learning）の手法を取り入れ、評価方法とともに「ESD課題探究型学習」をさらに発展させていければと考えています。

二つ目は、本校国際コースの「異文化学習」です。これまで10年以上に渡り、JICAの研修員や中部大学の教授を招き、「総合的な学習の時間」や学校設定科目である「異文化理解」の時間に、「異文化理解、並びに発展途上国に対する望ましい国際協力の形」を学習してきました。現在カナダとオーストラリアに交流校がありますが、今後はさらに海外の交流校を増やし、異文化理解の「生」の学習機会を増やしていく計画です。

三つ目は、本校インターアクトクラブ（ボランティア活動クラブ）の「地域貢献活動」です。これまで10年以上に渡り、週末に地元地域の高齢者施設、障害者施設、学童保育施設を訪れ、施設のお手伝いや、施設の人々を元気づける娯楽等の企画を立案・運営してきました。現在は約80人まで部員数が増え、年間を通じて40か所近い施設で、多彩な地域貢献活動を行っています。今後は、その活動領域を外国に広げ、国際化を目指していきます。

本校は、これまでの教育活動を「ESD」の概念に照らして見つめ直し、その教育内容の充実へと動き始めたばかりです。ESD学習を通じて、生徒が実社会に目を向け、自分の未来像を描くきっかけとなるように、これからのESD学習を発展させていきたいと考えています。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）